音楽のおくりもの　Information

Spire_M

小学校版
通巻第28号

contents

p.2　音楽を丸ごと楽しもう！
―体の動きを取り入れた鑑賞の学習とその意義―
筑波大学附属小学校教諭　中島寿×髙倉弘光 対談

p.8　卒業式の演出
～地域・保護者・行政機関などとの連携を活かして～
横浜市立黒須田小学校副校長　板橋 典子
横浜市立川井小学校主幹教諭　秀徳 能尚

p.12　教育出版ホームページのご紹介
音楽編集部

教育出版

筑波大学附属小学校教諭　中島寿×髙倉弘光 対談

音楽を丸ごと楽しもう！

―体の動きを取り入れた鑑賞の学習とその意義―

聞き手・編集部

編集部　今回は，鑑賞指導の豊富なご実践で知られる筑波大学附属小学校の中島寿先生，髙倉弘光先生に，鑑賞学習における「体を動かす活動」とその意義について，お話を伺います。

平成27年度から使用される弊社の小学校音楽科教科書では，鑑賞の学習に「体の動き」を取り入れる図や示唆を中・高学年まで掲載しました。まず，その意図や小学校学習指導要領（以下，指導要領と略す）との関連などについて，お聞かせください。

中島寿 先生（以下敬称略）

鑑賞の授業では，「聴き取る」ことと「感じ取る」ことが学習の大きな目標です。旧指導要領等で用いられた「身体反応」や「身体表現」と，今回の「体の動き」とで，活動の内容に大きな違いはないと思います。

Hisashi Nakajima

違うのは，「何のために」それらの活動をするのかという意図です。身体反応や身体表現そのものを目的とするのではなく，先に挙げた鑑賞の目標である「聴き取る」「感じ取る」と関係をもたせることです。

つまり，「聴き取りやすくするために」「感じ取りやすくするために」身体反応や身体表現といった「動きを伴う活動」を扱う，あるいは，「聴き取ったこと」や「感じ取ったこと」を「体の動きで表現」して共有したり理解したりするという，「指導の目的」が重要になります。

鑑賞で「動き」を取り入れるときに気を付けているのは，必ず「動き」に意味を持たせることです。ただ感覚的に動く（動かす），イメージで動く（動かす）ことのないようにすることが大切だと思います。〔共通事項〕の一つ一つが，その「意味」，つまり「ねらい」に成り得ます。

髙倉弘光 先生（以下敬称略）　指導要領の「第3　指導計画の作成と内容の取扱い」2の（1）に「各学年の『A表現』及び『B鑑賞』の指導に当たっては，音楽との一体感を味わい，想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう，指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること」とあります。旧指導要領までは，「身体表現」という言葉は表現領域に関する扱いでしたが，今回は鑑賞領域でも「体を動かす」ことが扱われています。体を動かすことを通じて学ばせたいこと，感じ取らせたいことを指導していくことが肝要でしょう。

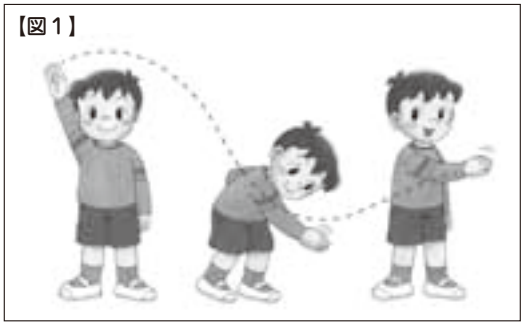
Hiromitsu Takakura

また，指導要領の『B鑑賞』（1）ウには，「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして」とあります。この「など」に「体を動かす」ことや「絵を描く」ことが含まれているといわれています。

中島先生のおっしゃるように，「体の動き」を取り入れるときは，その「意味」や「意図」が重要になります。

編集部　具体的な事例を紹介していただけます

【図１】



か。

髙倉　例えば３年生の教科書では，「白鳥」に体の動きが取り入れられています【図１】。私も「白鳥」は体の動きを取り入れやすい教材であると考えています。

この教材では，「チェロの旋律の音高の動き」と「フレーズ感」という二つのポイントで私は授業をしています。一人一人がボールを持ち６，７人のグループで体の動きで音楽を表していくのですが，グループごとに個性が光ります。子どもたちは言葉では表せないことも含めて動きで表すので，こちらが驚くこともあるくらいです。「どうしてそういう動きになるの？」と尋ねると，「だって，（音楽が）こういう感じなんだもん」と。子どもが音楽に集中して聴いて，感じ取ったことが動きに表れてくるのです。

１曲の教材について，大人が考えれば聴きどころはいくつもありますが，授業で指導者が子どもに一度に与える切り口は二つくらいにします。子どもたちはその切り口に集中して体を動かし始めますが，何度も音楽を聴いているうちに意図した表現以外の動きが，無意識に「表出」されるのです。そのようなときに「どうしてそういう動きをしたの？」と問いかけ，意識化を図ります。それが学習を深めるだけではなく，言語活動にもつながっていくのです。

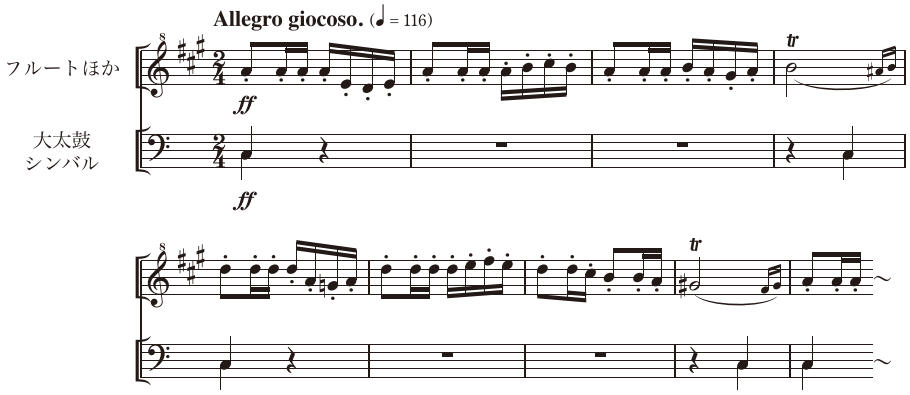
中島　私は，１年生の鑑賞の授業で「カルメン」（ビゼー作曲）から「第１幕への前奏曲」を，よく取り上げます【譜例１】。

全員がシンバル奏者になりきって，シンバルの音が聞こえたところで打ち鳴らすジェスチャーをします。このような「身体反応」によって，一人一人が音楽の要素を聴き取っているかを見取ることができます。そのうちに子どもたちは，シンバルが頻繁に出てくるところと全く出てこないところがあることに気付き，そこから曲の形式にも気付いていきます。このように，ある楽器の音色，特定のリズム，音型や響きなどを聴き取れたら手を挙げる，手を振る，旋律に合わせて体を動かすなどして，いろいろな場面で「動き」を使っています。

そして，まずは音楽の要素が聴き取れているかどうかを個人の「身体反応」によって判断し，それからグループ活動を通して音楽の仕組みを聴き取らせていくことが有効だと考えています。

私が初めて鑑賞の授業に「動き」を取り入れた教材曲は，「ノルウェー舞曲 第2番」でした。もう20年くらい前のことですが，この曲は当時の共通教材でした。今回も4年生の教科書に掲載されていますが，Ａ－Ｂ－Ａの形式がはっ

【譜例１】



きりしています。それも緩 - 急 - 緩となっていてわかりやすい。そこで，速度や曲想の変化から形式を聴き取らせたり感じ取らせたりするのに，「動き」を付けるのが有効だと考えました。グループで何度も聴きながら動きを付けるという方法です。聴き取りのポイントは速度，旋律，楽器の音色やアンサンブルの響きなどの「要素」と，反復や変化などの「仕組み」です。聴き取る段階と，体で表す段階の二つがスパイラルな学習を生み出しました。

「個人で聴き取る」学習と，「みんなで聴き取って，みんなで表す」という学校ならではの学習が，より豊かな鑑賞の学習を生み出すと考えています。また，体で表すために，何度も何度も教材曲を聴く，動きを考え話し合う，といった点も学習を一層深めます。

２年生「ゆかいな時計（シンコペーテッド・クロック）」では，個人でリズムや音色を聴き取りながら体を動かす活動をもとに，グループになって体で音楽を表す活動につなげました。つまり，個人の身体反応をグループの身体表現へつなげていきました。子どもたちはグループごとに個性のある表現でこの曲を表していました。

髙倉　聴きながら体で表すことで音楽との「一体感」をもてることが，この学習の一番のよいところです。

子どもは，言葉では理解できなかったり表せなかったりすることでも，体では表せることが多いのです。しかし，いきなり「音楽に合わせて動きなさい」では無理です。指導者が基本の動きを示すことから始め，それをもとにして子どもが広げたり，すてきな動きをしている児童に注目させてヒントにしたりして，段階的に学習をしていくことも大切です。

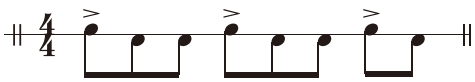
それから，私は「振り付け」という言葉は使っていません。それは音楽のイメージのみを表すことにつながりかねない。音楽に合わせて，ただ動いたり振り付けをしたりすればよいのではなく，「（音楽の）何を動くのか」ということを大事にしなければならないと思っています。

中島　ねらいが焦点化されていれば，動きが「合っている」「合っていない」について，子どもがおのずとわかってきます。動きには理由が必ずありますが，子どもは自覚していないことも多い。

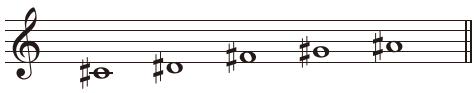
例えばグループ活動の場面で，輪になって歩いている子どもたちがあるところで逆回りを始めたので「何で逆回りにしたの？」と尋ねたところ，「フレーズが変化したから」というように答えたことがありました。動きで表すことによって，子どもたちは理由を言葉で表現できるようになると思います。

髙倉　平成27年度版で５年生に掲載される「つるぎのまい」（ハチャトゥリヤン作曲）の学習では，私は「合いの手」に焦点をあてました。いきなり合いの手といっても難しいので，事前に「幸せなら手をたたこう」のように合いの手の入る歌を取り上げ（この曲では手拍子），「フレーズとフレーズのあいだに調子よく入る音が合いの手だ」ということを理解させます。それから「つるぎのまい」を聴かせ，合いの手のところで手を挙げさせます。この曲も「始め－中－終わり」というＡ - Ｂ - Ａに近い形式ですが，合いの手が頻繁に出てくる部分と全く出てこない部分があることから，子どもたちは身体反応を通じて形式にも気付いていきます。

【譜例 2】



【譜例 3】



また，これは教科書には載っていない部分ですが，「合いの手」のほかに「混合拍子（3+3+2拍子）」**【譜例２】**や「５音音階」**【譜例３】**が現れる部分にも注目させようと考えました。５音音階については，以前に鍵盤楽器の黒鍵だけを使って即興演奏をする活動を行っていましたので，子どもたちは曲の最後の部分に5音音階が現れることを比較的容易に気付くことができました。

一方で混合拍子については，子どもたちには「先生がみんなに特に聴かせたいところがもう一か所あるんだけど，どこかわかるかな」というふうに，あえて聴きどころを教えませんでした。しかし「動き」を取り入れて鑑賞した結果，子どもたちは「ここが聴きどころだ」ということをすぐに見つけました。この――いわばリズムのファイティングともいえる――混合拍子のところでは，両腕を交互につきだしてパンチするようにして動くなど，どのグループも印象的な動作を取り入れたからです。

このように「合いの手」という一つの要素から展開し，最終的には１曲のなかで，四つくらいの要素や仕組みを聴き取ることができたわけです。体を動かすことで音楽の特徴を自然と感じ取ることができ，音楽と一体化することができるのです。

編集部　子どもたちに体を動かすことに抵抗を感じさせないようにするためにはどうしたらよいのでしょうか。

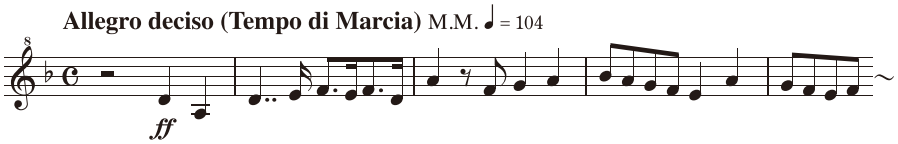
中島　そもそも子どもは，動くことが好きなはずです。特に低学年は動くことに抵抗を感じない，それどころか動きたくて仕方ないというのが一般的ではないでしょうか。しかし，その時期に動くことがあたりまえではないようにしてしまうと，高学年になったときに恥ずかしいなどという理由で動かなくなってしまう。「動くことが面白い」と感じる活動であれば，いくらでも動くものです。そのためにも動くのが普通だ，ということを先生が認識していることが大事なのではないかと思います。

苦手なことには必ず原因があるはずです。それは音楽の授業そのものに原因があるとも限らないことですが……。

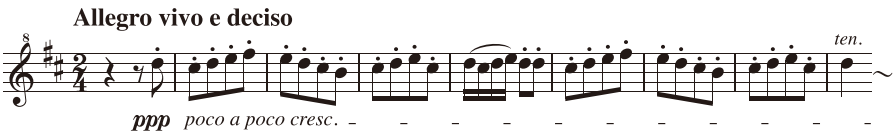
髙倉　高学年になって体を動かさなくなってしまう現象を打破するために，小道具を使います。例えばボールを持たせて「先生のまねをしてみよう」と言うと，子どもたちの意識は体よりもボールに集中しているので，その結果，体を大きく動かすことができる。逆に言うと，ボールを持たせて「動くな」というほうが難しい（笑）曲によって，持たせる小道具をボールにしたりスカーフにしたり工夫します。

中島　体を動かしながら音楽を聴くことで，音楽を視覚化することができます。例えば，３年生「組曲『アルルの女』」から「ファランドール」は，「せんりつ１　三人の王者の行進」**【譜例４】**

【譜例４】



【譜例５】



と「せんりつ２　ファランドールぶ曲」**【譜例５】**という二つの旋律が交互に出てきて，最後にはその二つが重なり合う曲ですが，まずは二つの旋律をしっかりとおさえます。この段階では，最後に重なるということを隠しておきます。それから「せんりつ１」と「せんりつ２」の二つのグループに分け，その旋律が出てきたところでそれぞれの動きをさせます。すると，初めは交互に動いていたのが，最後には二つのグループが同時に動くことになり，子どもたちは音楽の仕組みを視覚的に理解することができます。このとき，二つのグループがお互いを見られるように向かい合う隊形にすることがポイントです。

髙倉　私も同様の実践をしますが，二つの旋律が交互に出てくる部分で，「せんりつ１」のグループが動いているときに「せんりつ２」のグループは完全に動かないわけです。そして，まさにこれが音楽を表しているのです。動きを取り入れた活動において「動かない」というのも大切な要素なのです。

この曲を取り上げたときもうひとつ面白かったのは，小道具はボールでもスカーフでも何を使ってもよいことにしたのですが，「せんりつ２」の動きにボール使った子どもが誰もいなかったことです。代わりにスカーフを振りながら旋律を表していたのですが，繰り返されるごとに動きがだんだん大きくなっていきました。「どうして動きが大きくなったの？」と尋ねると，「だんだん音が大きくなるから」という答えが返ってきました。こちらは二つの旋律を聴き取らせることをねらいとしていましたが，子どもたちはそれ以外のことにも注目したのです。

先ほども申しましたが，鑑賞では，あれもこれも聴かせようとすると白けてしまうことがあるので，これだけは聴き取ってほしい点に的を絞ることが大切なのですが，一方でそれ以上のことに子どもたち自身が気付くということもあるのです。

中島　それと，グループで活動するよさは，個人では聴き取ることができないことを，みんなで同じ動きをすることによって「あ，ここはだんだん大きくなっているのか」というように，聴き広めていくことができる点です。友達同士で気付き合いながら学習できるというところが学校ならではのよさと言えます。

編集部　体の動きを取り入れた鑑賞の学習に取り組もうとされている先生方のために，指導上の留意点を教えていただけますか。

髙倉　まずは「音楽の何を動くのか」を明確にすることです。単に「音楽に合わせて動きなさい」とか，「振り付けをしなさい」では，ねらいがぼやけてしまう。また，身体表現自体を目的化するのではないので，パフォーマンスとして完成させる必要はないのです。

さらに，気を付けたいのは体を動かすのに適さない曲もあるということです。ただし，これは実際にやってみないとわからないものです。

音や音楽は目に見えないものですが，子どもたちにはそれを「目に見えるようにしてごらん」と言います。逆に言えば，音楽が鳴っていなくても動きさえ見ればそれがどんな音楽なのかわかるようにする，ということです。

音楽の特徴をよく表して動いている子どもに注目させるのも有効です。子どもたちは教師がなぜその子に注目させるのかを動きによって理解します。さらに，なぜそのような動きをするのか，理由を説明することができるはずです。

中島　教師が子どもへ動き方の具体的なアドバイスをすることも時として必要ですね。いきなり何でもいいから動けと言われても，どうした

らよいのかわからない子どももいます。しゃがんだり立ったりしてみる，跳んでみる，回転してみるなどの動きの基本的なパターンを一度理解してしまえば，様々に応用が効きます。

また，鑑賞する曲のどこが面白いのかということを，まず教師が見出すこと。そして，その面白さを聴かせるためにはどんな方法があるか，ということを考えていくとよいでしょう。

先に挙げた「カルメン」の「前奏曲」なら，特徴のあるタイミングで入ってくるシンバルが登場する部分としない部分があるという面白さだけで十分です。また「つるぎのまい」などは，聴かせどころがたくさんありますが，子どもたちの発達段階に合わせて取捨選択すればよいと思います。ねらいの焦点化が一番大切です。

なお，鑑賞をする際に，必ずしも曲の全体を聴かなくてもよい場合があります。６年生「交響曲第5番『運命』第１楽章から」では，様々な指揮者による演奏の違いを聴き取ることが学習のポイントとなりますが，全体を聴き比べることは難しい。けれども，有名な出だしの部分だけなら子どもたちが自ら指揮者になって振ってみることはできます。そして自分の好きな表現に合う演奏を選んでみる，というような活動が行えます。

鑑賞の授業では，自分の聴き方ができる子どもを育てたい。ですから必ずしも全曲通して聴くことにこだわらず，ある部分だけを取り上げて動作をさせ，それを通じて子どもたちがその曲のよさに気付いていくことがあってもよいのではないかと思います。

編集部　それでは最後に，「体の動き」を取り入れた鑑賞学習の，今後の広がりについてお考えをお聞かせください。

髙倉　子どもたちの多くは実際にオーケストラの楽器を弾けるわけではありません。しかし体を動かしながら疑似演奏することはできます。それによって，より能動的に音楽を聴き，音楽との一体化が実現できるのではないかと思っています。

中島　鑑賞曲をクラシック音楽に限定せず，様々なジャンルに広げていきたいです。多くの国々や地域に固有の音楽，ジャズや現代音楽なども同じ対象として面白く聴くためには，どうしたらよいのか。体の動きを取り入れ，それを手掛かりにしながら聴き深めていければよいですね。

音楽を丸ごと楽しもう！

卒業式の演出

～地域・保護者・行政機関などとの連携を活かして～

横浜市立黒須田小学校副校長
板橋 典子（元横浜市立川井小学校主幹教諭）
横浜市立川井小学校主幹教諭
秀徳 能尚

学校教育は，学校だけでできるものではなく，企業や行政機関，地域と学校が連携することによって，より豊かなものになる。横浜市立川井小学校では，行政機関や様々な企業と連携することで，より創造的な教育活動になるよう，取り組んできた。今回は，昨年度ローランド㈱と連携して取り組んだ音楽的な活動，卒業式の取り組みについて紹介する。

1 卒業式の取り組み

卒業式とは，学校生活に折り目がつくような内容をもったもの，厳粛な雰囲気の中で行われるべき性格のもの，学校生活に転機を与え，新しい生活へ向けての希望と決意を促すような感銘深い，有意義なものであると捉えている。これらを踏まえ，児童や教師の思いがあふれる卒業式，保護者が我が子の成長を感じられるような卒業式にしたいと考えた。

○卒業式に対する担任の思い

- 子どもたちの思いがあふれる卒業式にしたい。
- 自らの成長を感じ，次の一歩を踏み出す力をつけさせたい。
- 音楽活動に多く取り組んできたので，卒業式も豊かな音楽にあふれたものにしたい。

○卒業式に対する児童の思い（卒業に向けてのアンケートより抜粋）

- 卒業式に参加した人全員が感動し，私たちの成長を感じてくれる卒業式にしたい。
- 今度は歌で，みんなと一つになりたい。
- 自分が成長するための卒業式にしたい。
- 支えてくれたいろんな人に，言葉や歌で「ありがとう」を伝える卒業式にしたい。
- 夢や，やりたいことに正直に向き合えるような卒業式にしたい。
- ５年生が次に最高学年になって学校を引っぱるということが伝わればいいと思う。
- ６年生らしく堂々とした卒業式にしたい。

年間を通して合奏に取り組んできたため，卒業式でも楽しく合奏をしてみたいという意見も多くでてきた。しかし，卒業式の捉えや限られた時間ということも考え，次のような方針を立てて，具体的な卒業式の内容や演出を計画した。

- 卒業式を最後と授業と捉え，指導のねらいを明確にし，気品ある態度を育てる実践活動の場とする。
- 自分自身を振り返る活動を通して，成長の実感，感謝，未来への希望，夢，自分について考える機会とする。
- 卒業式の中で，一人ひとりの思いを自分の言葉で語らせる。
- 「友達」「感謝」「別れ」などをキーワードにした歌で，共通の思いを綴っていく。
- 在校生がこれからの自分の在り方について目標をもち，さらに向上しようとする気持ちになれるような工夫をする。

《自分の言葉で》

- 「呼びかけ」で，分担された言葉を一人一人が言うことで表現の場を保障するのではなく，卒業証書授与の時に，自分の思い出や夢，感謝などの思いを自分の言葉で堂々と伝えられるようにする。

《成長した姿を》

- 証書授与の時，スクリーンに幼い頃の写真と証書をもらっている姿を映すことで，この６年間の成長を卒業生，在校生，保護者，地域の方などに見せるようにする。

《６年間の思いを歌にこめて》

- 言葉や群読を中心とした「呼びかけ」ではなく，歌を中心とした「呼びかけ」にする。曲間や，前奏，間奏などに思い出や感謝の言葉を簡潔に入れていく。
- 児童の思いが表現できるような選曲をする。
  「かけがえのないこと」（卒業生）
  「明日へつなぐもの」（在校生）
  「心の瞳」（卒業生）
  「旅立ちの日に」（卒業生　在校生　教職員）
- 卒業生の入退場は在校生による合奏とする。卒業生が時間をかけて取り組んできた合奏を在校生が行うことで，引き継ぐという気持ちがお互いに生まれればと考える。
  「威風堂々」（入場）
  「サークル・オブ・ライフ」（退場）

2　音楽的な取り組み

この１年間での６年生の音楽的な成長は目覚ましいものがあった。毎年恒例の，全校で歌や合奏を発表し合う10月下旬の音楽会では「Wish ～夢を信じて」の歌唱と「ガリレオのテーマ曲」の器楽合奏を行った。また，11月中旬には東京湾大感

ショルダー・キーボード Lucina の演奏

謝祭，12月初めには横浜ズーラシア動物園のクリスマス点灯式で，それぞれのイベントに合った曲を合奏で披露した。音楽を通して子どもたちの心も育っていくのがよくわかった。年度当初，教師主体で「風のコンサート」と称して校庭の片隅で行っていた休み時間のミニライブは，卒業間近にはアドリブで子どもが参加するジョイントライブに変化していた。

卒業式でも，企業連携によってこれまで多く活用してきた電子楽器を取り入れた。

電子打楽器HandSonicは，小物打楽器やドラムセットなど，多くの打楽器の音色を出すことができる。ラテン系の楽曲の合奏では，数種類の打楽器類が必要になるが，HandSonicがあれば，複数の打楽器の音色を選択できるので便利である。また簡単に良い音が出せるので，演奏をより豊かにすることができる。卒業式では，在校生が「威風堂々」を演奏した。難しいスネアロールも，HandSonicでは手でパッドを押さえることで強弱を簡単に表現でき，有効であった。退場時のリコーダー合奏「サークル・オブ・ライフ」では，少々小刻みで複雑なアフリカンなリズム構成も，テンポ良く保つことができた。スティックを使わなくてもドラムのビート感を表現できるので，ポピュラー音楽など，選曲の幅も拡げることができた。

卒業式の合唱で毎年悩んでいたのが，ステージ上にあるピアノの音と児童の歌声とのズレ感であった。ピアノを床に下ろすわけにもいかず，シンセサイザーを使用してもピアノと比較すると少し違和感があった。そこで今回は，卒業生と在校生の間に電子グランドピアノを借用して設置することとした。生のピアノと比べても音色の遜色がなく，さらに伴奏者の鍵盤タッチの強さに合わせた音量や音色を選択したり，合奏時には，曲に合わせて劇的な音色（例えばピアノの音に加えて低音にストリングスの音色を重ねるなど）を演出したりすることができた。

電子グランドピアノ（左）と
電子打楽器 HandSonic（右）の演奏

3 企業との連携

● 学校として

音楽は，音楽的な感性だけでなく，豊かな心を育てることができる教科である。特に合奏は，他者とのコミュニケーションや，協働して思いやる心を育てるといった社会性を学べるという点で，有効な教育活動であると考える。

音楽の学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」に，「第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は，既習の楽器を含めて，電子楽器，和楽器，諸外国に伝わる楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること」とある。電子楽器の導入にあたり，授業や行事を通して既存の楽器と電子楽器の特性が活かせるよう，楽曲の選定，アレンジ，主体的な操作とセッティングの指導など，きめ細かな配慮をした。企業との連携による最新の電子楽器の導入により子どもたち一人一人のモチベーションは上がり，合奏への興味が高まり，「音楽っておもしろい」「学校って楽しい」という気持ちがうまれ，そして学校全体が音楽で一体となっていくのを実感した。

● 企業として

当社（ローランド）は，2011年7月，教育機器事業部を立ち上げ，小学校の，主に器楽合奏に着目した。たくさんの打楽器音を内蔵している電子打楽器RMP-12やHandSonic，立って前に出て演奏できるショルダー・キーボードLucina（ルシーナ）を中心に，活用事例づくりに力を入れてきた。その中で，川井小学校の取り組み，その姿勢に共感，賛同し，「音楽科授業において，先駆けて電子楽器・機器を有効活用されているモデル校」として，サポートを開始した。授業や音楽会での電子楽器活用のサポート等で連携し，今年度で4年目に至っている。

私たちは電子楽器メーカーだが，特に教育の現場では，もちろん“すべて電子で”とは考えていない。既存のアコースティック楽器などと，うまく融合してゆくことを常に望んでいる。既存の楽器と一緒に，最新の電子楽器を使うことで，子どもたちが音楽を好きになるきっかけとなればよいと考えている。

また，川井小学校の卒業式では，音だけではなく，映像と組み合わせて扱うAVミキサー VR-3を使用した。今の卒業生の姿と幼い頃の写真をリアルタイムに切り替えて，大型スクリーンに映し出した。保護者や地域の方々に大いに感謝され，高く評価いただけたのは非常に大きな手応えを感じた。

普段，メーカーとしてあまり接点の無い方々との交流は，ものづくりをする側にとって新たな発見の場であり，勉強させていただく場でもある。それはまさに，こうした活動の賜物であり，学校，地域，企業がそれぞれWIN・WINの関係となった瞬間だったと思う。

昨年度の同校での「風のコンサート・ファイナル」の日に，6年生から私たちに感謝の気持ちがたくさん詰まった内容のメッセージカードが贈られた。自分たちだけでなく，先生方をはじめ，周囲の協力があってこそという思いに溢れていた。子どもたちがこんなに成長していたのだと感慨もひとしおであった。

卒業式で，卒業生と在校生が当社の電子グランドピアノを思う存分に弾いている姿と，卒業生の数名が舞台上で，将来音楽に関わる活動がしたいという夢を声高く語った光景は，まさに川井小学校の取り組み（音楽を通した健全な学校運営）の申し子たちだと感じた。本当にこの活動をやっていて，“すばらしい”と実感した瞬間だった。

4 まとめ

担当の教職員だけが授業や行事を考えるのではなく，演奏家や企業など様々な人々の知恵，感性を加味して教育活動を創り上げていけば，もっともっと「おもしろい」授業や学校運営が実現できると思っている。

音楽科編

教育出版ホームページのご紹介

教育出版のホームページでは，弊社教科書をご使用いただいている先生方のために，様々な資料や特別講座を公開しています。

ここでは，音楽科関連の資料がどこにあるのか，わかりやすくご紹介します。授業等でご活用下さい！

まずは，教育出版ホームページ「http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/」へアクセス。

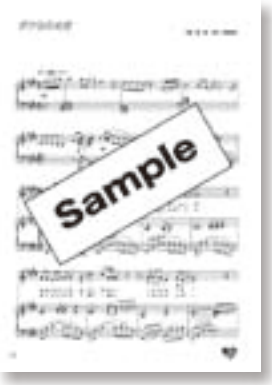
来春から使用が始まる新しい教科書「音楽のおくりもの」の評価計画例と年間指導計画を，PDF および Word データでご覧いただけます。

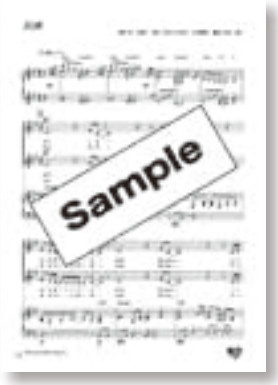
現行教科書に対応した資料はこちらです。授業に役立つ掲示用資料などを，PDF データを印刷して簡単につくることができます。詳しくは 14 ページへ。

リコーダーと和楽器の特別講座です。ここでしか見ることのできない写真や楽譜も豊富に掲載。詳しくは 15 ページへ。

合唱や器楽の楽譜や CD をご紹介しています。
CD は一部分を試聴することができます。教科書には載っていない名曲も多数！

編集部のおすすめ，愛らしい表紙でも人気の小学生向け合唱曲集「MUSIC JAM KIDS」シリーズ（全３巻）





ブックサービス　amazon.co.jp　honto

紀伊國屋書店 BookWeb

インターネット書店からの注文も可能です。（教育出版のサイトからは離れます）

●ホームページ画面は 2014 年 7 月現在のものです。内容は予告なく変更される場合があります。

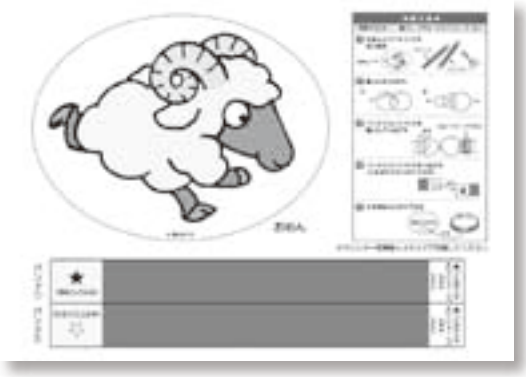
教育出版ホーム ⇒ 小学校のサイト ⇒ 音楽 ⇒ 指導資料

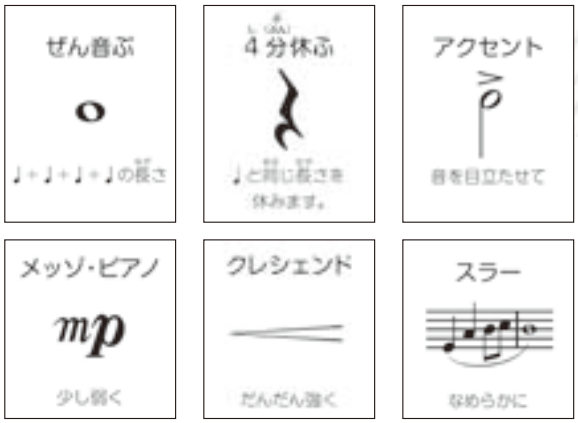
⇒ 平成 23 年度版「小学音楽　音楽のおくりもの」教授用資料

このページでは，教科書で扱われる教材に関連した様々な資料を PDF で公開しています。
その中からいくつかをご紹介しましょう。授業等にご活用下さい。

▶ 1 年生「どれみの うた」の〈どれみの たいそうのれい〉掲示用資料。［1 年 P.26］

▼ 2 年生「どうぶつラップで あそぼう」でご使用いただけるお面のデータ。厚めの A4 用紙に印刷して簡単につくることができます。［2 年 P.13］





◀各学年でご使用いただける楽典の資料。いつでも見られる場所に掲示して楽譜を子どもの身近なものに。［2 年 P.15 ほか］

▶ 4 年生「ノルウェー舞曲 第 2 番」のポートフォリオ。プリントとして配布・回収できるように名前記入欄つき。［4 年 P.45］

◀ 3 年生「組曲『アルルの女』から」の二つの旋律を紹介するイラストの掲示用資料。［3 年 P.47］

教育出版ホーム ⇒ 小学校のサイト ⇒ 音楽 ⇒ 参考資料・特別講座

⇒ SOUND CELEBRITIES

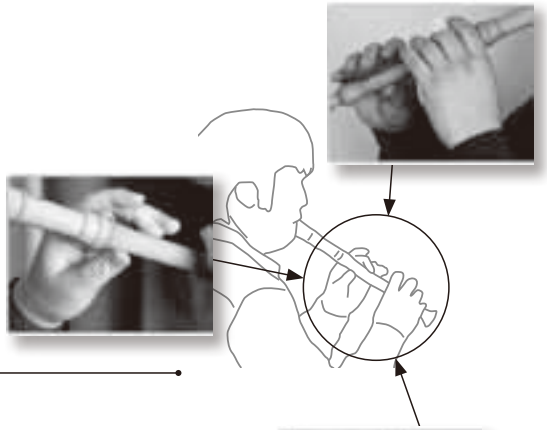
「金子健治先生のリコーダー講座」と「眼龍義治先生の和楽器講座」が開講中。楽器の知られざる情報や演奏のコツなどが，豊富な写真資料や楽譜とともに丁寧に解説されています。

ここでは，金子先生のリコーダー講座をのぞいてみましょう……

●金子健治先生のリコーダー講座

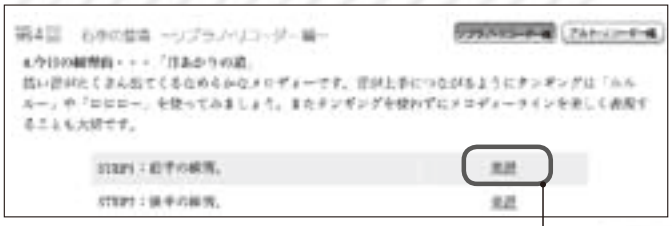
★ここに注目
どのページにも表示されているこのボタンをクリックすると，ソプラノ・リコーダー編とアルト・リコーダー編に簡単に切り替えられます。二つの楽器を比べられるのも特徴です。

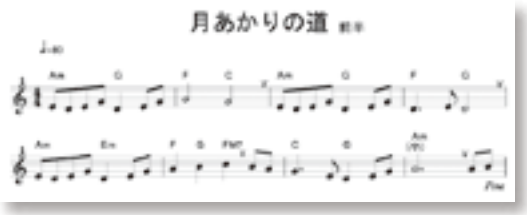
▼第３回　左手だけであんな曲，こんな曲～ 1. 高い「ド」と「レ」



★ここに注目
リンクをクリックすると様々なアングルから撮られた手元の拡大写真が表示されます。

▼第４回　右手の登場～ 4. 今日の練習曲・・・「月あかりの道」





★ここに注目
少しずつ着実に練習することができるように，部分的に楽譜が表示されます。慣れてきたら通して演奏してみよう。

まもなく締め切り!!

第12回

地球となかよし メッセージ 作品募集（2014年度）

「地球となかよし」という言葉から感じたり，考えたりしたことを，写真（またはイラスト）にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に参加賞がもらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2014年7月1日 ～ 9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧下さい。
作品テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや，自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して，友好の輪を広げた体験，異文化交流，国際理解に関すること ③その他，「地球となかよし」という言葉から感じたり，考えたりしたこと

◎主催／教育出版　◎協賛／日本環境教育学会
◎後援／環境省，日本環境協会，全国小中学校環境教育研究会，毎日新聞社，毎日小学生新聞
＊協賛・後援団体は昨年実績で，継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/

教育出版　「地球となかよし」事務局　TEL. 03-3238-6862　FAX. 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町２－10

前回入選作品

たんぽぽって，すごい！

おにわに，もうすぐ「わたげ」になりそうな「たんぽぽ」がありました。それを，ままがぬいてしまいました。「かわいそう」とおもって，もうすぐ，わたげになりそうな「たんぽぽ」を，そおっとそのまま，げんかんにおいておきました。するとびっくり!!　水をつけていなかったのに，２日ごに白い大きな「わたげ」になっていました。「たんぽぽ」のつよさにおどろきました。かってきた，花びんのお花は，水につかっていなかったら，すぐにかれてしまうのに。
しぜんって，すごいなぁとおもいました。わたしも，たんぽぽのように，こまったことがあってもじぶんでなんとかできるつよさをもちたいです。

小学音楽通信　Spire_M〔2014年 秋号〕　2014年9月1日　発行

編　集：教育出版株式会社編集局　　発　行：教育出版株式会社　代表者：小林一光
印　刷：大日本印刷株式会社　　発行所：教育出版株式会社
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 2-10　　電話　03-3238-6864（お問い合わせ）
URL　http://www.kyoiku-shuppan.co.jp

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は，科学技術の進展や国際化，情報化，高齢化などによって，今，大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で，人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには，人や自然を大切にしながら，共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。
わたしたちは，この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め，社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL：011-231-3445　FAX：011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL：0138-51-0886　FAX：0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL：022-227-0391　FAX：022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL：052-262-0821　FAX：052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL：06-6261-9221　FAX：06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL：082-249-6033　FAX：082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL：089-943-7193　FAX：089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵 2-11-30 クレセント東福岡 E 室 TEL：092-433-5100　FAX：092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL：098-859-1411　FAX：098-859-1411